

## 新国立劇場バレエ研修所 ロシア・モスクワ公演 牧阿佐美振付『シンフォニエッタ』上演決定

A.Y.ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミー創立 280 周年記念ガラ・コンサート  
2018年6月19日(火) ボリショイ劇場 / 20日(水) 国立クレムリン宮殿

### A.Y.ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミーが、新国立劇場バレエ研修所をガラ公演に招待

新国立劇場バレエ研修所は、本年6月にモスクワのボリショイ劇場と国立クレムリン宮殿にて開催されるA.Y.ワガノワ記念・ロシア・バレエ・アカデミー創立 280 周年記念ガラ・コンサートに招待されました。総勢12名の若きダンサーがボリショイとクレムリンの舞台に登場し、牧阿佐美振付の『シンフォニエッタ』を上演いたします。

A.Y.ワガノワ記念ロシア・バレエ・アカデミーは、ボリショイバレエ学校（正式名称：モスクワ国立アカデミー舞踊学校）、パリ・オペラ座バレエ学校等と並び、世界有数の歴史と伝統あるバレエ学校です。本公演はアカデミーの創立 280 周年を祝うガラ・コンサートとして開催され、第1部はワガノワの卒業生とアカデミー生による小作品、第2部は世界の優れたバレエ学校による競演、第3部はワガノワ出身で世界的に活躍しているスターダンサーとアカデミー生による『パキータ』（第3幕）という華やかな公演となります。新国立劇場バレエ研修所は、ボリショイバレエ学校、デンマーク・ロイヤル・バレエ学校などの世界の名高いバレエ学校とともに、このガラ公演の第2部に出演します。

新国立劇場バレエ研修所の海外公演参加はめざましく、2006年、2011年の「Protégés～国際バレエ学校フェスティバル～」(ワシントンD.C.のケネディ・センター)、2013年の「モスクワ国立舞踊アカデミー創立 240 周年記念国際バレエフェスティバル」(モスクワの国立クレムリン宮殿)に続き、この度は4度目となります。

日本の国立のバレエ研修所として、日頃の研修成果を世界の観客に披露するとともに、世界中から集まった才能ある同世代のダンサーと交流を深め、貴重な経験を糧に、さらなる飛躍を目指します。



\*本事業は「ロシアにおける日本年」に認定されています。  
「ロシアにおける日本年」の概要はこちら：  
[http://www.mofa.go.jp/mofaj/erp/jrep/page25\\_000679.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/erp/jrep/page25_000679.html)

## 新国立劇場バレエ研修所プロフィール



新国立劇場バレエ研修所は、プロフェッショナルなダンサーを目指している方の研修機関として2001年4月に開設され、牧阿佐美所長のもと、2018年3月までに13期82名が修了いたしました。毎年、選考試験を突破した約6名のダンサーが、2年間の研鑽を積んでいます。2009年4月からは、心身の柔軟な時期における基礎的な技術の習得、さらにバレエダンサーとしてバランスの取れた美しい身体の養成を目的とし、若年層を対象に予科制度

を開始しました。

バレエ研修所では、クラシカル・バレエをはじめとした技術を磨くだけでなく、様々な知識や教養を身に付けることがダンサーとしての表現力につながると考え、全日制のカリキュラムを組んでいます。

発表公演を開催する一方で、舞台実習として新国立劇場バレエ団の公演にも参加するなど、劇場附属の研修所ならではの舞台経験も積んでいます。

これまでに多くの修了生が新国立劇場バレエ団に入団し、小野絢子や木村優里などはプリンシパルやソリストとして活躍しています。また、新国立劇場バレエ団以外の国内外のバレエ団でも研修所での成果を十二分に発揮し、第一線で活躍しています。

バレエ研修所はこれからもダンサーのレベルや質の向上を目指して、なお一層の充実を図っていきます。



2011年3月米国ワシントンD.C. ケネディセンター公演より



2017年7月バレエ・アステラス2017より『シンフォニエツ』

### 新国立劇場バレエ研修所 これまでの海外公演参加歴

2006年 ワシントンD.C. ケネディ・センター「Protégés～第1回国際バレエ学校フェスティバル～」

2011年 同ケネディ・センター「ProtégésIII～第3回国際バレエ学校フェスティバル～」

2013年 モスクワ 国立クレムリン宮殿「モスクワ国立舞踊アカデミー創立240周年記念国際バレエフェスティバル」

## 振付・バレエ研修所長 牧 阿佐美 MAKI Asami



日本バレエ界の草分けの一人、橘秋子の長女として生まれる。1954年から1年間米国に留学してアレクサンドラ・ダニロワ、イゴール・シュヴェッツォフに師事。1956年、橘秋子と共に牧阿佐美バレエ団を設立。同バレエ団で古典から創作作品まで数々の主役を務める。1962年、63年に第16回と第17回の芸術祭文部大臣奨励賞を連続受賞。1963年から64年にかけては、バレエ芸術浸透のため月1回バレエ団定期公演を行い、この画期的な活動により芸術選奨文部大臣賞を受賞。

1968年には振付家としてデビューし、黛敏郎作曲『ブガク』、芥川也寸志作曲『トゥリプティーク』、團伊玖磨作『シルクロード』を振付して注目された。

1971年に舞台を退き、橘秋子の遺志を継いで牧阿佐美バレエ団主宰者、橘バレエ学校校長に就任。以来、卓越した指導力で多くの舞踊手の育成に携わり、振付家としてもめざましい活躍を続けている。

1999年7月から新国立劇場舞踊芸術監督に就任。英国アシュトンバレエの傑作『シンデレラ』、デンマーク・ブルノンヴィルバレエ『ラ・シルフィード』、また米国で活躍したバランシンやチューダーの作品を上演して同国立劇場バレエ公演に新機軸を打ち出した。2000年には『ラ・バヤデール』をプティパ版を基に自ら振付し、日本人として初めて新国立劇場で行った古典バレエの改訂振付として話題を呼んだ。また、2004年に『ライモンダ』全幕の改訂振付を行い、この年の朝日舞台芸術賞を受賞。そのほか監修及び演出振付作品として、2006年『白鳥の湖』、2007年『椿姫』、2009年『くるみ割り人形』がある。

1984年にニムラ賞、87年に芸術選奨文部大臣賞、東京新聞舞踊芸術賞、舞踊批評家協会賞を受賞、1991年から93年に牧阿佐美バレエ団として舞踊批評家協会賞を3年連続受賞、91年橘秋子特別賞を受賞。1996年、紫綬褒章受賞。2004年、フランス芸術文化勲章シュバリエを受章。2008年5月には日本人として初めてブノワ賞の審査にあたった。2008年平成20年度の文化功労者に選ばれた。

### 牧 阿佐美振付の『シンフォニエッタ』について

『シンフォニエッタ』は、歌劇『ファウスト』など、フランス・オペラの作曲家として知られるシャルル・グノーの、知られざる交響曲第1番ニ長調の第1楽章と第4楽章をアレンジして使っている。

この『シンフォニエッタ』は、2006年1月、ワシントンD.C.のケネディセンターにおける“Protégé”（国際バレエ学校フェスティバル）において、新国立劇場バレエ研修所第3期生らによって上演され、大好評を博した。端正なバレエ・クラシックを披露しつつ、次から次へとスピーディに展開していくシンフォニック・バレエである。

その後、作品を、現役の研修生たちが先輩から受け継ぎ、バレエ研修所の重要なレパートリー作品となっている。

なお、今回は、第2版として原曲に基づき音楽を再構成した。

#### ■写真・資料のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 広報室 広報第一係

Tel: 03-5352-5781 / Fax: 03-5352-5784